

## 生物多様性あつぎ戦略における各施策の進捗状況など

※1 定量的な表示が可能な施策のみを数値で示しています。

※2 年度は戦略策定(H25)、中間(H28)、直近2年度(R1、R2)のみを記載しています。

※3 合計欄は戦略策定(H25)から令和2年度末までの総計を記載しています。

### 基本目標Ⅰ 大山から相模川に広がる多様な自然環境の保全と再生

行動戦略	具体的施策	主な実績内容	年度(※2)				H25~R2 合計(※3)
			H25	H28	R1	R2	
①山地の保全と再生	森林の維持管理の推進 私有林の管理支援の実施	枝打ち、 徐間伐面積 (ha)	70.08	37.26	10.11	17.79	268.31
	森林整備・管理の人材確保	森林ボランティア参加者数	213	154	113	64	1,212
		森林体験教室参加者数	29	40	20	中止	204
	厚木産木材の活用促進	公共施設整備箇所	1	0	0	0	6
		間伐材搬出量 (m <sup>3</sup> )	44	280	677	1,315	3,678
林産物の活用促進	—	—	—	—	—	—	
行動戦略①の 主な進捗状況	<p>枝打ち、徐間伐は、林床など山地の生物多様性の保全につながることから、引き続き取組を推進していきます。公共施設の整備については、過去に児童館や老人憩の家などの実績がありますが、平成30年度以降は実績がないことから活用促進として課題が残ります。</p> <p>林産物については活用メニューの充実を模索するとともに、シイタケのほだ木づくりなど体験することで、木に親近感を持ってもらえる取組を引き続き進めていきたいと考えます。</p>						
②里地里山の保全と 再生	里地里山保全等促進条例の制定 棚田修復作業体験の実施	H25に条例制定					
		市認定団体数	—	6	7	7	—
	(仮称)健康こどもの森整備事業の推進	H27にあつぎこどもの森公園として開園					
		体験プログラム参加者数(のべ数)	開園前	1,879	3,501	736	10,430
	ハイキングコースの周辺環境の整備	整備回数	96	96	96	96	864
	有害鳥獣対策の推進	ニホンザル追い払い回数	1,543	1,923	781	245	11,419
		ニホンザル捕獲数	30	40	20	1	340
ニホンジカ捕獲数		166	131	131	144	1,093	
	イノシシ捕獲数	15	74	136	47	465	
行動戦略②の 主な進捗状況	<p>里地里山保全等促進条例の制定、あつぎこどもの森公園の開園は、市内の生物多様性の保全を図る上での重要拠点の制度や環境を整備した取組となりました。</p> <p>また、里地里山の保全と密接に関わる有害鳥獣への対策は、ニホンザルの一部の群れの除去が完了するなどの成果があり、引き続き新規の流入なども踏まえながら対策を進めていきます。</p>						
③水辺の保全と再生	多自然川づくりの推進	多自然型整備工事箇所	0	3	2	2	11
	親水空間の整備	整備(維持管理)箇所	9	9	9	9	72
	谷戸・水辺の再生事業の推進	谷戸水辺再生工事箇所	0	0	1	1	6
	水辺の環境学習の推進	参加小学校数(のべ数)	3	2	3	中止	18
	河川愛護・美化運動の推進	相模川クリーンキャンペーン参加者数	2,800	2,466	2,516	中止	18,842
行動戦略③の 主な進捗状況	<p>谷戸・水辺の再生事業については、予定工事箇所の整備が完了し、今後は整備後の良好な水辺環境の保全を検討しながら維持管理する必要があります。</p> <p>また、身近な水辺として親水広場の維持管理を継続するとともに、小学校との連携事業(水辺の環境学習)の実施により子どもが楽しみながら生き物と触れ合い、興味を深める機会を確保していきます。</p>						

行動戦略	具体的施策	主な実績内容	年度（※2）				H25～R2 合計（※3）
			H25	H28	R1	R2	
④農地の保全と再生	遊休農地の解消	農地流動化面積（ha）	65.6	95.6	125.2	136.6	—
	市民農園の拡充	市民農園の数	9	14	13	14	—
	農業従事者の育成	新規就農者数	実施なし	4	3	4	20
	環境保全型農業の推進	補助金交付件数	6	6	9	10	55
	地産地消の推進	朝市の回数	50	52	45	29	383
		夕市の回数	29	29	29	18	221
行動戦略④の 主な進捗状況	農地流動化面積や市民農園の拡充により遊休農地が活用され、農地の荒廃化の解消についても緩やかな進捗が見られました。二次的ではありますが生物多様性の保全にも結びつくことから、今後も必要な支援を実施し、引き続き取組を進めていきたいと考えます。						
⑤市街地における自然の創出	公共施設の緑化推進	緑化箇所（のべ数）	188	187	143	141	1,366
	都市公園における緑の質の向上及び道路緑化の推進	活動団体数	102	104	107	105	—
	民有地の緑化の推進	奨励金交付件数	471	465	449	443	3,679
	斜面緑地の保全	奨励金交付件数	260	264	252	251	2,069
		奨励金対象面積（㎡）	416,260	404,885	389,872	389,770	3,218,600
	屋上緑化等の推進	補助件数	1	0	0	0	1
環境配慮型の市街地整備	—	—	—	—	—	—	
行動戦略⑤の 主な進捗状況	都市公園や道路の緑化に関する団体数、公共施設の緑化箇所、民有地や斜面緑地の奨励金交付件数のいずれも若干の減少はあるものの、市街地の緑化は概ね維持できている状況にあります。団体の高齢化など課題はあるものの、引き続き各所の緑化を推進していきます。						
⑥全市における生物多様性の保全と再生	水と緑の連続性の確保	—	—	—	—	—	—
	ビオトープの推進	—	—	—	—	—	—
	希少野生動植物の保全	オオタカ生息調査回数	23	24	21	16	169
	外来種等の対策	アライグマ捕獲頭数	35	21	25	39	222
		市民協働の駆除活動参加者数	実施なし	551	207	20	1,316
	野生鳥獣の保護と管理	鳥獣捕獲許可証交付件数	88	129	132	146	910
重要地域の保全、質の向上	—	—	—	—	—	—	
行動戦略⑥の 主な進捗状況	水と緑の連続性の確保は、里地里山や公園、河川などの個別整備に取り組んでいますが、エリアとしての一定の保全までは進んでいません。今後は厚木市レッドデータブックの活用や外来種対策など、組織横断的な連携を進めるとともに包括的な保全を図ります。						

## 基本目標Ⅱ 過去から未来へつなげる情報の蓄積

行動戦略	具体的施策	主な実績内容	年度（※2）				H25～R2 合計（※3）
			H25	H28	R1	R2	
⑦生き物に関する調査の推進	生き物の生息、生育状況調査の推進	—	—	—	—	—	—
	市内の生物多様性に関する情報の収集・蓄積、データベースの構築	—	—	—	—	—	—
	厚木市版レッドデータの作成	R2に厚木市レッドデータブックを完成					
	市民協働による生き物調査の推進	—	—	—	—	—	—
行動戦略⑦の 主な進捗状況	令和2年度に厚木市レッドデータブックが完成し、希少種だけではなく生物目録が掲載されることで、市内の生物多様性の状況が整理されました。生き物調査は、生息や生育環境の経年変化を把握するために、長い期間での継続性が求められることから、データベースの構築と併せて今後も進めていきたいと考えます。						

## 基本目標Ⅲ 自然環境の重要性を伝える取組

行動戦略	具体的施策	主な実績内容	年度（※2）				H25～R2 合計（※3）
			H25	H28	R1	R2	
⑧生物多様性の普及啓発	環境教育等の充実	さがみ自然フォーラム参加者数	220	850	1,200	中止	5,390
	環境保全活動の促進	—	—	—	—	—	—
	グリーンフラッグの取得の推進	エコスクール取組校	3	6	6	4	—
	人材育成、リーダーの養成	ジュニアエコリーダー認定者数	実施なし	25	25	9	79
	環境保全活動団体支援	支援対象団体数	—	111	109	113	—
	情報発信の充実	—	—	—	—	—	—
行動戦略⑧の 主な進捗状況	<p>さがみ自然フォーラムなどの普及啓発事業を実施し、様々な手法を検討しながら生物多様性の保全の重要性を市民の方に伝える取組を進め、令和元年度までの参加者数の増加につながりました。情報発信については、市ホームページや広報、メールマガジンなど多様な媒体で実施してきましたが、より興味を持ってもらえる情報手段の選択と伝え方を研究し、高い効果が発揮できるよう努めていきたいと考えます。</p>						

### 生物多様性あつぎ戦略の実績と今後の方向性について

市内の生物多様性の保全は、戦略の策定後、あつぎこどもの森公園の開園や森林の徐間伐面積の拡大といった環境整備の実施、厚木市レッドデータブックの完成、また、令和元年度までのさがみ自然フォーラムなどのイベント参加者数の増加などから、着実な進捗傾向にあると考えられます。

しかし一方で、新たな総合計画策定に係る市民アンケートの結果（令和2年度実施）では、「生物多様性の普及や保全が進んでいると思う市民の割合」は、「そう思う・ややそう思う」が18.7%、「どちらでもない」が53.5%、「そう思わない・あまりそう思わない」が27.8%となっており、市民の方への認知としては充分と言えない状況にあります。

このことから、今後の方向性としましては、引き続き生物多様性の保全に資する環境の整備などを進めるとともに、展示手法やイベント内容など、市民の方に向けて生物多様性への理解を深めていただけるような工夫についても、より一層意識し普及啓発の取り組みを進めます。

### 生物多様性に関する取組紹介 ～ 相川小学校「ふゆ見つけ」～

生物多様性に関する独自の取組として、相川小学校の1、2年生で行われた「ふゆ見つけ」を紹介します。生活科の授業時間を活用し、子どもたち自身で学校近隣の環境にある花や葉っぱ、生き物などを見つけ、話し合い、まとめて、発表する取組です。

春夏秋冬の季節ごとに1回ずつ実施し、春と秋は1～6年生までの縦割り活動となることから、低学年の児童が上級生から「学び方を学ぶ」良い機会にもなっています。1年間の同じグループでの活動を通じて、より深く季節の変化や自然を観察する力を養うとともに、沢山の不思議を発見し考えることで、豊かな心を育みます。

#### ○「ふゆ見つけ」の流れ

- ・各学年2人ずつの4人1班のグループになり、校内の観察場所（新相川の森、ほほえみ広場など）で、花や葉っぱ、生きものなどを集めます。
- ・集めたものを画用紙の上に広げ、グループで話し合いながら見つけた場所や種類ごとにまとめます。名前を知っている種類は鉛筆で追記し、発見できたものの採取できなかった種類は絵で描きます。
- ・まとめたものを学習用のタブレット端末で撮影し、秋見つけ（11月頃）との変化を観察後、グループごとに発表をします。

《相川小学校の学校日記(ブログ)》 ※関連の内容は2022.2.25に掲載されています。  
<http://www.edu.city.atsugi.kanagawa.jp/aikawa-es/>

